

科目ナンバリング		U-LAS70 10001 SJ50					
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー：三枝洋一「数論幾何入門」を読む ILAS Seminar :Reading "Introduction to Arithmetic Geometry" by Yoichi Mieda			担当者所属 職名・氏名	理学研究科 准教授 伊藤 哲史		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)
開講年度・ 開講期	2026・前期	受講定員 (1回生定員)	8(8)人	配当学年	1回生	対象学生	全学向
曜時限	水5	教室	理学部3号館3階305教室(北部構内)			使用言語	日本語
キーワード	代数学関連 / 整数論 / 数論幾何 / モジュラー曲線 / 保型形式						
【授業の概要・目的】							
<p>数論幾何とは、幾何学的方法で方程式や整数の性質を研究する数学の一分野である。整数は、定義は単純だが、その定義からは想像もできないような不思議な性質を持っている。まだまだ未解決の問題も多い。</p> <p>この授業では、「モジュラー曲線」を題材に、数論幾何の基本的な考え方を学ぶ。また、数論幾何の様々な定理に触れる。</p>							
【到達目標】							
<p>数論幾何の基礎を学ぶ。数論幾何の研究に使われる代数学や解析学の手法を学ぶ。具体例を通じて計算する技術を身に付ける。整数という身近な題材を通じて、数学の問題を論理的に考察する練習や、専門書を自ら読み進める練習を行う。</p>							
【授業計画と内容】							
<p>授業は輪講形式で行う。</p> <p>授業の進め方は次の通りである。第1回の授業では参加者の発表箇所を決める。各回の授業では、発表担当者があらかじめ割り当てられた内容について板書を使って説明する。1回の授業につき2人が発表を行う。各参加者にとっては、およそ4回に1回程度、自分の発表の番が回ってくる。</p> <p>本授業では予習と復習は必須である。</p> <p>学期末には授業に関連した内容についてのレポートを提出すること。</p> <p>授業予定は以下の通りである。以下の内容について全15回（フィードバックを含む）の授業を行う。これらはおよそ教科書の前半部分(1章から7章まで)の内容に相当する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 数論幾何学への招待 (2回) (2) モジュラー曲線とは (2回) (3) モジュラー曲線 (SL₂(Z)) (2回) (4) 保型関数と保型形式 (2回) (5) モジュラー曲線 ($\Gamma_0(p)$) (2回) (6) モジュラー曲線 ($\Gamma_1(11)$) の方程式 (2回) (7) モジュラー曲線のF_p有理点 (2回) 							
【履修要件】							
特になし							
ILASセミナー：三枝洋一「数論幾何入門」を読む(2)へ続く							

ILASセミナー：三枝洋一「数論幾何入門」を読む(2)

【成績評価の方法・観点】

発表への取り組み（25点）、討論への積極的な参加（25点）、学期末レポート（50点）により評価する。

【教科書】

三枝洋一『数論幾何入門 モジュラー曲線から大定理・大予想へ』（森北出版）ISBN:978-4-627-07891-8

第1回の授業の際に発表箇所を決めるので、その時までには教科書を入手しておくこと。

【授業外学修（予習・復習）等】

この授業は輪講形式であり予習・復習は必須である。

授業への積極的な参加が望まれる。

発表時には、教科書に書かれていることを表面的に読むだけでなく、説明が分かりにくいところは自分で補ったり、興味深い定理があったら例を計算してみるなどして、理解を深めるように試みるとよい。

自分が発表担当でない回でも教科書の予習を行うこと。自分ならどのように発表するかということを考えながら参加するとよい。発表者の説明が分かりにくい箇所については積極的に質問すること

【その他（オフィスアワー等）】

授業後に質問を受け付ける。

【主要授業科目（学部・学科名）】